

指導と評価の充実に向けて

～学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイント～

愛知県総合教育センターでは、平成25年度から平成27年度までの3か年にわたり、5校の県立高等学校とともに、文部科学省委託事業「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」に取り組みました。大学の先生方の指導を受けながら、国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語におけるパフォーマンス評価を実践し、多様な学習成果から思考力・判断力・表現力をはじめとする、高校生として身に付けるべき資質・能力を測ろうとしました。本冊子では、パフォーマンス評価について紹介するとともに、学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイントをまとめました。

■ パフォーマンス評価を取り入れた学習指導の流れ

目指す生徒像の設定

- ① 生徒の学びの現状を捉えた上で、各学校の「**目指す生徒像**」を設定します。
- ② 各教科における「生徒に**身に付けさせたい力**」を具体化します。
- ③ ②を踏まえて、各科目における年間学習指導計画を作成します。



1 計画

- ① 単元の目標（身に付けさせたい力）を踏まえた学習活動を計画します。
- ② 目標とする力を生徒がどの程度身に付けたかを把握するために、**パフォーマンス評価**等を計画します。



3 振り返りと改善

- ① パフォーマンス評価の結果を生徒へフィードバックすることで、**次の学習の指針**を示します。
- ② 学習指導や評価方法を振り返り、**改善につなげる**機会とします。



2 実践

- ① 計画に基づき、学習活動を行います。単元の途中で、目標に応じた成果が得られているかを適宜把握し、それを踏まえて、学習内容や指導方法を修正します。
- ② パフォーマンス評価を実施します。「**パフォーマンス課題**」に取り組みせ、生徒のパフォーマンスを「**ルーブリック**」によって評価します。

パフォーマンス評価に関するQ & A

Q 学習評価とは何ですか？

A 学習評価は学期末や年度末に行う「評定付け」のことだけを言うのではなく、学習活動のさまざまな場面で行われるものです。学習活動の開始前に生徒の現状を把握することや、学習活動の途中で成果を判断することなども学習評価であり、一定の学習活動後に行う評価と同様に大切なものです。

学習評価は、その実施時期や機能により、次の三つに分けることができます。

名称	実施時期	機能
診断的評価	学習活動の開始前	学習に入る前に、生徒がその学習内容について、どの程度の知識や学習経験をもっているかを把握します。この評価に基づいて、指導計画や学習内容を立案します。
形成的評価	学習活動の途中	目標に応じた成果が得られているかを適宜判断します。この評価に基づいて、指導の軌道修正を図ったり、個々の生徒への支援策を考えたりします。
総括的評価	一定の学習活動後	その学習活動を全体として振り返り、生徒が最終的にどの程度の学力を身に付けたかを評価します。成績や評定を付けるのに使用したり、教員が今後の指導改善に役立てたりします。

※参考文献（秋田・藤江，2010）

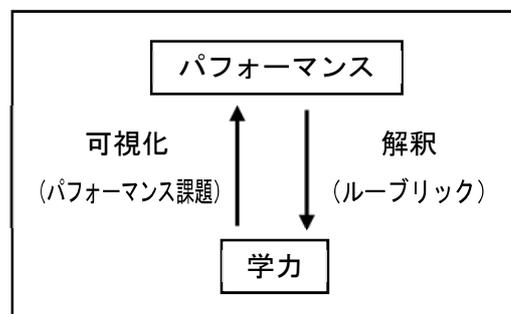
Q パフォーマンス評価とはどのような評価方法ですか？

A パフォーマンス評価とは、「ある特定の場面を設定して、さまざまな知識や技能などを用いて行われる人の行動や作品を、直接的に評価する方法」のことです。

具体的には、思考力・判断力・表現力等の「**見えにくい学力**」をパフォーマンス課題によって、パフォーマンス（行動や作品など）へと可視化し、ルーブリックなどを使うことによって、パフォーマンスを解釈します。

体育や芸術において、実技や作品の出来栄をある評価項目（観点）について、判断の基準を定めて測るという評価方法は、パフォーマンス評価の一例です。

※参考文献（松下，2007）



パフォーマンス評価の構図

Q パフォーマンス課題にはどのようなものがありますか？

A パフォーマンス課題には次の二つのタイプがあります。

- ① レポートや小論文、詩や小説、ポスター、図表やグラフ、模型などの**完成作品**を示す課題
- ② 口頭発表、ロールプレイ、演奏や演技、演劇、実験器具の操作などのその場で**発表（実技）**する課題

なお、各教科のページに、パフォーマンス課題の具体例を掲載しています。

※参考文献（田中編，2010）



Q パフォーマンス課題の作成に当たり、留意すべき点は何ですか？

A パフォーマンス課題の作成に当たっては、次の四点に留意します。

- ① 生徒に**身に付けさせたい力**は何か（目的は何か）。
- ② 身に付けさせたい力を発揮させるために**どのような内容**にするか。
- ③ 生徒に**どのような活動**をさせるか（教員はどのように支援するか）。
- ④ 完成作品、発表、実技などの**どこに注目して評価**するか。 →**ルーブリックの作成へ**
また、生徒が**興味をもち、意欲的に**取り組める課題とすることが大切です。

※参考文献（三藤・西岡，2010）

Q ルーブリックとは何ですか？

A ルーブリックは、簡潔に言うと「生徒の**評価項目**ごとのパフォーマンスの質がどの**尺度**に当たるかを**段階的に評価する基準表**」です。どのような特徴が見られればどの評価結果になるかを具体的に述べたものです。

尺度 評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
評価項目 1	・・・できる ・・・している	・・・できる ・・・している	・・・できない ・・・していない
評価項目 2	・・・できる ・・・している	・・・できる ・・・している	・・・できない ・・・していない

ルーブリックのイメージ例

※参考文献（松下，2007）

Q ルーブリックはどのように作成したらよいですか？

A ルーブリックの作成においては、最初に**評価項目**を決めます。評価項目は何項目でも構いませんが、パフォーマンス課題の目的に合わせ、何を評価したいのかを意識して、絞り込むことが大切です。

次にそれぞれの評価項目についての尺度を決めます。尺度は、パフォーマンスの質のレベルを考慮して、段階数とその内容（上記の例で言うと、「A 十分満足できる」など）を決めます。最後に生徒のパフォーマンスを予想しながら、評価項目ごとに、各段階のパフォーマンスに見られる特徴を**具体的な文言**で表現します。例えば上記の例のように3段階の場合、最初に「B おおむね満足できる」の特徴を決めます。そうすると、「A 十分満足できる」「C 努力を要する」の特徴を決めやすくなります。

尺度を4段階や5段階にしたり、評価項目ごと、尺度ごとに点数を割り当てて評価の重みを変えたりすることもあります。

※参考文献（松下，2007）

Q パフォーマンス評価を取り入れることで、どのようなことが期待できますか？

A パフォーマンス評価は、**思考力・判断力・表現力**等を測るのに優れた評価方法です。また、パフォーマンス課題に取り組んだ後の振り返り活動（自己評価等）により、関心・意欲・態度等を把握することも可能となります。

従来から行われている主に知識・理解や技能を測るための筆記テストによる評価に、パフォーマンス評価や振り返り活動を組み合わせることで、**観点別学習状況をバランスよく評価**することができます。

国語科編 ～深い学びに至る学習活動と評価～

目指す生徒像の設定

- ① 各学校の教育目標や生徒の実情に照らして、**国語科としての「目指す生徒像」**を考えます。
- ② ①に即して、**「卒業までに身に付けさせたい力」**を具体化します。
＜例＞文章を適切に読み取り、他者との対話を通して、自分の考えを構築する力
- ③ ①②を**教員間で共有し**、卒業までを見通して、意図的・計画的に指導を行います。

計画

単元の「目標」「評価規準」の設定

- ① 学習指導要領の指導事項に基づいて、単元の目標（その単元で身に付けさせたい力）を設定します。
- ② 単元の目標が生徒の学習状況として実現された状態を想定し、評価規準とします。
＜例＞課題に基づき、適切な根拠を挙げて、自分の意見を記している。

単元の指導計画の作成

- ① 目標とする力を身に付けさせるために、適切な言語活動と教材を選定します。
- ② 単元の指導計画を作成します。

指導計画の作成に当たっては、「**主体的・対話的で深い学び**」を念頭に置きます。

- **「主体的な学び」**とするために…単元（授業）の始めに、教員と生徒が目標を共有します。単元（授業）の終わりに、生徒が自らの学びを振り返り、次の学びにつなげることができるようにします。
＜活動例＞自己評価シートなどを用いて、単元の目標に沿った振り返りの活動を行う。
- **「対話的な学び」**の効果を上げるために…「知識の定着」「物事の深い理解」など、そのつど明確な目標をもち、教員と生徒の対話、生徒同士の対話などによる学習活動を展開します。
＜活動例＞『こころ』の「K」は、いつから自死しようと思いだめたのか、根拠を挙げて話し合う。
- **「深い学び」**とするために…「思考を促す問いや解決したい課題」と「考えるための材料や手段」を生徒に提示し、熟考を促します。生徒にとって切実な問い、仲間と話し合いたくなる魅力的な問いなど、**思考を促す質の高い問い**を設定するには、**深い教材研究**が求められます。
＜思考を促す問いの例＞小説は、どのように読んだらいいの。『こころ』は、誰に向けて書かれたか。
＜考えるための材料の例＞登場人物、時代背景、表現の特色、主題、情景や心情、構成や展開
＜考えるための手段の例＞ペア活動、グループ活動、パフォーマンス課題



パフォーマンス課題とルーブリックの作成

- ① 単元のまとめとして、パフォーマンス課題を作成します。
- ② 単元の目標に沿って、ルーブリックを作成します。
- ③ ルーブリックに基づき、生徒用の自己評価表・相互評価表を作成します。
- ④ ルーブリックは、パフォーマンス課題に取り組む前に、生徒と共有します。
(単元の目標の確認となります)



<パフォーマンス課題の例>

意見文、批評文、散文・韻文の脚本化、体験発表、意見発表、テーマに基づく討論など

実践

単元の指導例

単元の目標：文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、主題を捉えたりする。

言語活動：読み比べ **教材**：「羅生門」「仙人」（ともに芥川龍之介）

単元の指導計画

1次(2時間)	「羅生門」を読み、初読の感想を書き、場面や登場人物、表現の特徴について考える。
2次(4時間)	疑問点を挙げながら読解し、下人の心理の変化を読み取る。(グループ活動)
3次(1時間)	「羅生門」の主題を考え、文章に書き、読み合う。(ペア活動)
4次(1時間)	「仙人」を読み、場面や登場人物、表現の特徴について考える。(ペア活動・グループ活動)
5次(2時間)	「仙人」の主人公の心理について考え、老人の思惑を推測する。(グループ活動)
6次(1時間)	「羅生門」と「仙人」を比較した上で、3次で書いた「羅生門」の主題をリライトする。 <パフォーマンス課題> 自己評価・相互評価を行う。

パフォーマンス課題とルーブリックの例

パフォーマンス課題：「仙人」との比較に基づき、「羅生門」の主題及び表現の特色について600字程度で述べなさい。

ルーブリック

評価項目	A	B	C
読み比べて主題を捉える。	「羅生門」の主題について、「仙人」の主題と比較して記すことができる。	「羅生門」と「仙人」の主題について、それぞれ記すことができる。	「羅生門」と「仙人」の主題について、それぞれ記すことができない。
読み比べて作品の内容や表現の特色を理解する。	「羅生門」の内容や表現の特色について、「仙人」と比較して説明することができる。	「羅生門」と「仙人」の内容や表現の特色について、それぞれ説明することができる。	「羅生門」と「仙人」の内容や表現の特色について、それぞれ説明することができない。

振り返りと改善

- 教員は、評価の結果を生徒にフィードバックするとともに、自らの実践を振り返り、指導と評価の改善に生かします。
- 生徒は、教員の評価及び自己評価・相互評価の結果を参考にして、身に付けた力と今後高めたい力について確認し、次の学びにつなげます。

地理歴史科，公民科編 ～学習と評価の充実に向けて～

目指す生徒像の設定

各学校の教育目標と生徒の実情を踏まえ，学習指導要領に基づき，**教科・科目を通して生徒に身に付けさせたい力**を具体化します。設定した生徒像は，年間学習指導計画や単元構想に反映させます。

＜公民科の例＞ **社会事象について，根拠に基づき自分の考えを構想できる。**
自分の考えに基づき，主体的に社会参画できる。

計画

単元の目標の設定

- ① 教科・科目を通して生徒に身に付けさせたい力と単元の学習内容を踏まえ，**単元の目標**を設定します。
- ② 単元の目標に従い，単元の**評価規準**を作成します。

＜公民科の例＞我が国では，小さな政府と大きな政府のどちらが望ましいか，具体的な根拠に基づき自分の意見を構想できる。【 思考・判断・表現 】

単元の学習活動の検討（公民科の例）

導入

生徒の**考えを揺さぶる**ような発問等の仕掛けによって，学習に対する意欲を高められるよう工夫します。

展開

- ① 単元の目標の実現に必要な**基礎的・基本的な知識や技能**を習得させます。
- ② 習得させた基礎的・基本的な知識や技能を活用し，他の生徒と**協働的に学ぶ場面**を設定します。
協働的に学ばせ，多面的・多角的に考察させることで，生徒の考えを広げ深めさせます。
- ③ 協働的に学ぶ場面を通して考察させたことを基に論拠をつくらせ，生徒自身に意見をまとめさせる課題（**パフォーマンス課題**）を提示します。課題を通して得られた生徒の学習成果を，**ルーブリック**によって評価します。
活用する知識や技能を焦点化することで，課題を通して何を問うのが明確になります。

まとめ

振り返りをすることで，①何を学べたか，②自分の学びをどのように深めたか，③今後さらに何を学びたいかといった学びによる変容を生徒自身に気付かせます。



実践（公民科の例）

協働的に学ぶ場面

- ① 【税制】・【社会保障】・【企業活動】・【公的部門】・【雇用】の五つの分野に班分けをします。各班で小さな政府、大きな政府のメリット、デメリットを話し合い、分析結果を発表させます。
- ② 各班の発表内容を、黒板に書き込ませ、クラス全体で共有します（下図参照）。



		税制	社会保障	企業活動	公的部門	雇用
小さな政府	キーワード	受益者負担の徹底	自助努力	規制緩和・新規参入	民営化	労働市場の活用
	メリット	分析結果	分析結果	分析結果	分析結果	分析結果
	デメリット					
大きな政府	キーワード	累進課税の拡大	高福祉・高負担	規制強化・産業保護	拡大	完全雇用
	メリット					
	デメリット	分析結果	分析結果	分析結果	分析結果	分析結果

この図は、黒板に書いたマトリックスです。これを活用することで複数の分析結果を比較したり、関連付けたりすることや多面的・多角的な考察をすることが容易になります。生徒が自分の考えをまとめる際のツールになります。

パフォーマンス課題

あなたは、新聞にコラムを投稿することになった。テーマは「我が国における小さな政府と大きな政府の選択」である。小さな政府と大きな政府のどちらの立場に立つのかを明確にし、複数の分析結果の比較や関連付けをした上で、具体的な理由付けを示しつつ350～400字程度の原稿を作成しなさい。

ルーブリック 評価の観点：【思考・判断・表現】

評価項目	A	B	C
分析結果の比較・関連付け	四つ以上の分析結果の比較や関連付けができる。（5点）	二つ以上の分析結果の比較や関連付けができる。（3点）	分析結果の比較や関連付けができない。（0点）
具体的な理由付け	具体的な理由付けを示し、自分の意見を述べることができる。（5点）	理由付けを示し、自分の意見を述べることができる。（3点）	理由付けを示し、自分の意見を述べることができない。（0点）

振り返りと改善

単元の目標に基づき学習活動を計画して、実践し、目標に準拠した評価によって得られた具体的な改善策を次の計画に生かします。こうして「PDCA サイクル」を回すことは、授業改善と学習の充実に有効です。

数学科編

～単元計画書を利用した教科指導のPDCAサイクルの確立～

目指す生徒像の設定

数学科として「目指す生徒像」を明確に決めて、それが評価できるパフォーマンス課題及びルーブリックを作成し、平素の授業でも「目指す生徒像」を意識した学習活動を行います。

<例>

基本的な概念や原理・法則を深く理解し、事象を数学的に考察し、他者に論理的に表現できる。

計画

単元計画書の作成

単元計画書	
教科名(科目名)	単位数
対象クラス	教科担当者
単元名	単元の実施時期
単元目標 (学習指導要領)	
1	生徒の実態と単元観
生徒の実態を踏まえ、単元の重点を決めます。	
2	評価規準
①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方
③数学的な技能	④知識・理解
観点別に、生徒がどのような学習状況を実現すればよいのかを具体的に想定します。	
3	パフォーマンス課題について
重点目標	身に付けさせたい知識・技能
パフォーマンス課題の内容	指導方法・形態
身に付けさせたい知識・技能を総合して使いこなすことを求める課題、思考力等を働かせその結果を表出できる具体的な場面を設定します。	
4	パフォーマンス課題のルーブリック
段階 ()	観点1
段階 ()	観点2
5	育成したい能力(キャリア教育の観点から)
〇〇カ	新しい時代に必要となる資質・能力との結び付きを意識します。
〇〇カ	
〇〇カ	
6	授業計画
時数	小単元
学習内容・活動	①②③④
評価方法	
パフォーマンス課題とルーブリックを決めた上で、授業計画・評価計画を立てます。	

単元計画書作成の意義

- 単元の指導方法、評価方法などを複数の教員で共有することで、組織的な教科指導が可能となり、それぞれの学校における教科指導のモデルを蓄積することができます。
- 評価の観点(①～④)や、評価方法(授業、定期考査、パフォーマンス課題等)が明確になり、観点別学習状況をバランスよく評価することができます。



実践

パフォーマンス課題とルーブリックの例

【パフォーマンス課題】

与えられた写真と写真に関する会話文から必要な情報を選び出し、三角比を利用して、写真の人物と背景（富士山）の大きさから距離を算出し、写っている人物がどこにいたかを推測する。

【展開】

個別学習	与えられた写真と写真に関する会話文から必要な情報を選び出す。
グループ学習	ジグソー法* ¹ により、富士山からの距離を算出するのに必要な三つの知識をグループで共有することで、パフォーマンス課題を解決する。
個別学習	グループで話し合ったことを踏まえて、各自でパフォーマンス課題の解法をワークシートに記述する。また、自分の取組について振り返る。

【ルーブリック】

評価項目	A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	C（努力を要する）
黒板の幅に注目してカメラの画角を求めているか。	三角比の表を用いて、角度を求めることができている。	黒板の幅と黒板からの距離に関する記述がある。	正しく考えることができていない。
富士山の高さを用いて富士山からの距離を求めているか。	顔の大きさと富士山の高さを用いて求めることができている。	被写体と富士山の高さを用いて求めることができている。	正しく考えることができていない。

ジグソー法*¹

エキスパート活動

問題Aを解くグループ

問題Bを解くグループ

問題Cを解くグループ

➔

ジグソー活動

A, B, C

A, B, C

A, B, C

複数の知識や技能で構成されるパフォーマンス課題をグループで解決する際、エキスパート活動（一つの知識や技能を習得するための問題を解く活動）を行った後、ジグソー活動（それぞれが解いた問題を説明し合い、その知識や技能を共有する活動）を行います。



パフォーマンス課題の実施とルーブリックによる評価の留意点

- パフォーマンス課題の実施の際は、教員は**ファシリテーター**（調整役）としての役割に徹します。
- ルーブリックの作成において、教員が学習内容の理解を深めることや、**生徒の学習の実態を十分に把握**しておくことが、判断の基準の明確化につながります。
- 複数の教員で評価をする場合は、数人分のワークシートについて話し合いながら一緒に評価するなど、**判断の基準の統一**を図ります（信頼性の向上）。

振り返りと改善

- 生徒へ評価をフィードバックする際は、総合評価だけでなく、**観点ごとのコメントを添える**などして、今後の学習の指針となるようにします。
- 教員は、評価結果や生徒の振り返りの記述内容などにより、単元計画書の見直しをするなど、**指導と評価の改善**を図ります。

理科編

～観察・実験において、明確な目標に沿った評価を行うために～

目指す生徒像の設定

「理科の学習を通じて自校の生徒に身に付けさせたい力」を定めることで「日々の理科の授業において、この場面では、このような力を伸ばしたい」という目標を明確にするとともに、パフォーマンス課題とルーブリックの内容を考えるときの基盤とします。

<例>① 観察・実験などを、適切な操作・方法で主体的に行う力

② 既習事項を踏まえながら、観察・実験の計画、方法、結果についてグループで討論したり、実験の結果をまとめたりする力

○ 「理科の学習を通じて自校の生徒に身に付けさせたい力」を考えるときのポイント

「習得する力（基礎的・基本的な知識及び技能の習得）」「活用する力（習得した知識や技能の活用）」

「探究する力（習得・活用に基づく課題の探究）」

のそれぞれについて、「生徒の実態に合わせてどのように伸ばすか」という視点から考えます。

計画

パフォーマンス課題の実施時期と内容の検討

- ① 各単元の探究活動等を生かして、観察・実験を含むパフォーマンス課題を実施しましょう。
- ② 知識を単純に確認するだけの観察・実験、結果を簡単に推測できる観察・実験に留まることのないよう、課題の中に知識を使って考える場面を設定しましょう。

③ パフォーマンス課題に取り組む三つの目的を意識しましょう。

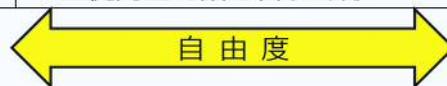
「既習の知識を生かして新たな課題に取り組む」という経験を通して、

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図ります。
- (2) 観察・実験の技能の向上を図ります。
- (3) 身に付けた知識を複合的に生かすことで、思考力・判断力・表現力等の向上を図ります。

④ 「課題の自由度」を工夫しましょう。

○ 教員は課題の内容を限定的に教えます。

課題全体	
・教員が生徒に教えながら進め、全体の足並みをそろえる部分	・生徒が考える部分 ・生徒同士で話し合う部分



○ 「生徒が考える部分」「生徒同士で話し合う部分」を工夫して、課題の自由度を考えましょう。

○ 評価するポイントを絞ることができます。



実践

これまで取り組んできた生徒実験をパフォーマンス課題として生かす工夫

- パフォーマンス課題の内容は、できるだけ「教科書で学んだ内容を、日常生活や実社会で見られる現象と関連付けたもの」にしましょう。
- それが難しい場合は、これまで取り組んできた生徒実験の中で、次の三つの場面を設定するよう工夫することにより、パフォーマンス課題の趣旨を生かした観察・実験に近づけることができます。



- ① 細かい解説等を与えられない中で、**自ら考えて表現**する場面を設定します。
- ② **「実験での実測値」と「理論上の計算値」**とのギャップを考察する場面を設定します。
- ③ **「日常の感覚」と「理論上の世界」**とのギャップを考察する場面を設定します。

パフォーマンス課題とルーブリックの例

<物理分野> 運動とエネルギーの検証実験

- パフォーマンス課題の内容
斜面上で小球を転がして水平面から水平投射させた後、小球が床に2回目の衝突をする地点を算出し、検証する。
- ルーブリック

評価するポイント	評価の観点	レベル3 (十分に満足)	レベル2 (おおむね満足)	レベル1 (努力を要する)
誤差の少ない操作を考えながら実験に取り組むことができたか。	観察・実験の技能	1回ごとに落下位置、失敗の原因等を詳細に記録し、操作を改善している。	1回ごとに結果を記録し、それを操作の改善に生かそうとしている。	実験の記録をとっていない。
理論計算の修正点などを考慮しながら考察することができたか。	思考・判断・表現	複数の観点から実験結果を考察している。	一つの観点を踏まえて実験結果を考察している。	実験結果を踏まえた考察ができていない。

- ルーブリックを作成するときのポイント
 - ① 評価するポイントを絞ります。
 - ② ルーブリックの作成に慣れるまでは、シンプルな表現を心がけます。

振り返りと改善

- ルーブリックを用いた評価では「望ましい結果が得られた」「得られなかった」という単純な判定をするのではなく、**「何がどのようにできたから、このような評価になったのか」を生徒と共有**することで、生徒の学習意欲の向上を図ります。
- ルーブリックを用いた評価を通して、観察・実験の技能や実験結果の考察力など生徒の「見えにくい学力」を確認し、評価結果から生徒の理解不十分な学習内容を把握し、教員の指導の改善につなげます（**「指導と評価の一体化」**）。

目指す生徒像の設定

- 卒業までに身に付けさせたい力、各学年で身に付けさせたい力を「**学習到達目標**」として設定し、『～**することができる**』の形で「**CAN-DOリスト**」に示します。
- CAN-DOリストの作成に当たっては、年度当初の生徒の学習状況や実態を的確に把握します。
- CAN-DOリストの内容を生徒や保護者に示すことにより、高校入学から卒業までの英語学習の目標を共有することができます。

<例>【第1学年】

聞いたり読んだりしたことに基づき、意見を交換したり感想を述べ合ったりすることができる。

計画

年間学習指導計画の作成

- 各学年で身に付けさせたい力を踏まえ、**年間学習指導計画**を作成します。単元ごとに、①単元の目標（その単元で身に付けさせたい力）、②言語活動の内容、③評価方法を検討します。

単元構想の作成

- 年間学習指導計画で設定した**単元の目標**を踏まえ、**単元における指導（授業）と評価（パフォーマンステストやルーブリックの内容等）の計画**を作成します。
- 指導と評価については、4技能をバランスよく扱った、言語活動を中心とした内容とします。
- 「話すこと」「書くこと」を評価するためには、実際に話したり書いたりさせる必要があります。

<例>【単元の目標】

海外で成功を収めた人物についての説明を読んで、その内容を口頭で要約することができる。
読んだことに基づき、自分の将来の夢について話すことができる。

実践

指導（授業）の内容及び留意点

- 単元の目標を達成するために、情報や考えを伝え合う**言語活動を中心とした指導（授業）**を行います。
- 言語活動における生徒のパフォーマンスに対して、適切なフィードバックを与え、目標達成に向けた意欲を高めるとともに、更なる学習への手がかりを与えます。

<例>【言語活動】

教科書本文の内容を、与えられたキーワードを用いて要約する。
教科書本文の内容や自分の将来の夢について、ペアで伝え合う。



- 授業で使用するワークシートに、言語活動のねらいやルーブリックを掲載することにより、生徒に授業の目標を意識させることができます。
- 生徒自身に、学習状況やパフォーマンスを振り返る機会（**自己評価する機会**）を与えることにより、**自らの状況を客観的に捉える力や自律性を育てる**ことができます。

評価（パフォーマンステスト）の内容及び留意点

① パフォーマンステストを実施します。

＜例＞内容㉗：指定された三つのキーワードを用いて、本文全体の内容を口頭で要約する。

内容㉘：その後、自分の将来の夢について話す。

② ルーブリックを活用して、生徒のパフォーマンスを評価します。

＜例＞【ルーブリック】（ ）内の数字は配点を示します。

評価項目	A	B	C
内容㉗		三つのキーワードを使い、おおよその内容を伝えることができる。 (6)	おおよその内容を伝えることができていない。 (0)
内容㉘	自分の将来の夢を具体的な理由とともに伝えることができる。 (6)	自分の将来の夢を伝えることができる。 (4)	自分の将来の夢を伝えることができていない。 (0)
声の大きさ	はっきりと聞き取ることができる。 (5)	聞き取りにくい部分もあるが、おおよその内容を聞き取ることができる音量である。 (3)	聞き取ることが難しいほどの音量である。 (0)
正確さ	文法、語法等の誤りがほとんどない。 (3)	文法、語法等の誤りがあるが、意味内容の伝達を妨げるほどではない。 (2)	文法、語法等の誤りが多く、意味内容の伝達が妨げられている。 (0)

この例では、「内容㉗㉘」と「声の大きさ」の配点を「正確さ」よりも高く設定することにより、内容を大切にしながら、間違いを恐れずに話すことを促しています。このように、評価項目ごとの配点を変えることにより、単元において重視しているポイントを強調することができます。

- 評価の妥当性を高めるためには、評価項目（テストを通して測りたい力）を明確にした上で、ルーブリックを作成する必要があります。
- 評価の信頼性を高めるためには、テストのねらいについて教員間で十分に話し合いを行ったり、サンプル評価を通して判断の基準のすり合わせを行ったりすることが有効です。

振り返りと改善

① 以下の視点で指導と評価の状況を振り返り、「計画」を見直したり、「実践」を改善したりします。

【教員の視点】

- ・ 学習到達目標はどの程度達成できたか。
- ・ 指導方法や評価方法は適切だったか。
- ・ 目標設定は適切だったか。



【生徒の視点】

- ・ 何ができるようになったか。次の目標は何か。
- ・ 何ができていないか。できていない部分を克服するために、学習をどのように改善すればよいか。

② ひととおりの指導と評価を終えた時点（学年末あるいは卒業時など）で、学習到達目標が適切であったかを検討し、必要に応じてCAN-DOリストの見直しを図ります。

指導と評価の充実を図る上でのQ & A

Q 指導と評価の一体化とは、どういう意味ですか？

A 学校においては、計画、実践、評価という一連の活動の繰り返しにより、生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されています。指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。このことを**指導と評価の一体化**と言います。

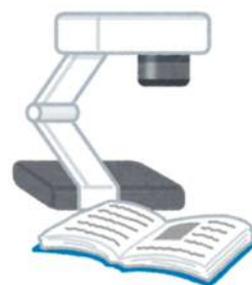
このような指導と評価の一体化を進めるためには、評価活動を評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって**指導の質を高める**ことがいっそう重要となります。

※参考ウェブサイト（文部科学省 確かな学力）

Q パフォーマンス評価を実施する時間を確保するための効果的な方法はありませんか？

A パフォーマンス評価の実施に当たっては、実技や発表、作品制作など、生徒にさまざまな活動をさせます。このような活動をさせるには、ある程度の時間が必要となります。この時間を確保するためには、年間学習指導計画を作成する際、パフォーマンス評価を実施する単元とそうでない単元の**時間配分に軽重**を付ける方法があります。

その上で、平素の授業の全部または一部について、目標や生徒の実態に応じて学習内容の精選を図る、ワークシートなどの教材開発を進める、反転学習やジグソー法などを学習活動に取り入れる、書画カメラなどのICTを活用する等の方法があります。



Q 話し合いの言語活動（グループ学習）を生徒にさせた場合、評価はどのように行うのですか？

A 言語活動を行わせる場合、それにより生徒に身に付けさせたい力を事前に決めておき、**活動を通して生徒が身に付けた力について評価**することが大切です。例えば、国語において、現代文の評論教材を用いて「要旨を捉える力」を身に付けさせたい場合、「グループで要旨について話し合う」という活動が設定できますが、評価するのは、この活動を通して生徒が身に付けた「要旨を捉える力」です。したがって、活動の後、例えばワークシートやノートに要旨を書かせて評価します。話し合いの活動に活発に参加していたかを評価するものではありません。



Q 評価の信頼性を高めるために、配慮すべき点は何ですか？

A 評価の信頼性を高めるには、次の四点に配慮することが必要です。

- ① 学校全体で**目指す生徒像**を共有し、それに基づき、各教科や単元で**身に付けさせたい力**を明らかにし、パフォーマンス課題やルーブリックを作成します。
- ② パフォーマンス評価を行う際は、事前の学習と事後の学習に**つながりがある計画**を立てて、生徒に単元の目標やルーブリックをあらかじめ示します。
- ③ 生徒のパフォーマンスから生徒が身に付けた力を見極めるための**洞察力**を高めます。
- ④ **協力してルーブリックを作成**し共通理解を図るとともに、評価の際にも**話し合い**ながら、評価の基準を統一するためにルーブリックを改訂し続けます。

※参考文献（愛知県総合教育センター，2016）

Q 生徒に自らの学びを振り返らせ、次の学びにつなげるための効果的な方法はありますか？

A 生徒が自らの学びを振り返り、次の学びにつなげることは、主体的な学びを実現する上で重要です。学びを振り返らせ、次の学びにつなげる効果的な方法として、次のようなものがあります。

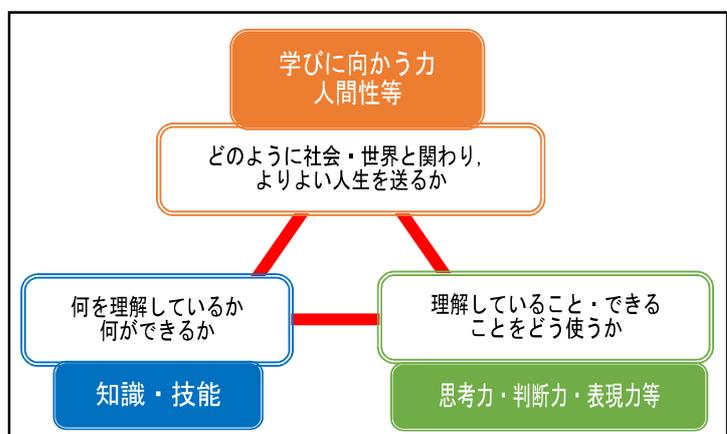
- 学習活動を終えたときに、自分の学習活動を客観的に把握するために**自己評価**をさせたり、生徒同士で評価させたりします。
- 評価結果を伝えるときに、総合評価だけでなく、**コメント**を添えたり、**優秀な作品**を全体の場で紹介したりします。
- 評価結果を伝えた後に、**自己評価と教員による評価を比較**させ、結果をどう受け止めたか、次にどうしたらよいかを書かせます。



Q 観点別評価は、今後どのように変わっていきますか？

A 観点別評価については、学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき学力の三要素を踏まえて、目標に準拠した評価を充実させ、教科を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促すために、各教科を通じて、「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の3観点に整理されます。

※参考文献（中央教育審議会，平成28年12月21日）



幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）補足資料（平成28年12月21日）

参考資料

参考文献

- 文部科学省「高等学校学習指導要領」（平成 21 年 3 月）
- 国立教育政策研究所「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）」（平成 24 年 7 月）
- 文部科学省初等中等教育局「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」（平成 25 年 3 月）
- 中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 21 日）
- 松下佳代（2007）「パフォーマンス評価ー子どもの思考と表現を評価するー」日本標準
- 西岡加名恵編（2008）「「逆向き設計」で確かな学力を保障する」明治図書
- 秋田喜代美・藤江康彦（2010）「授業研究と学習過程」放送大学教育振興会
- 田中耕治編（2010）「よくわかる教育評価 第2版」ミネルヴァ書房
- 三藤あさみ・西岡加名恵（2010）「パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくりー」日本標準
- 田中耕治編（2011）「パフォーマンス評価 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり」ぎょうせい
- 愛知県総合教育センター（2016）「平成 27 年度 高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究 研究成果報告書」愛知県教育委員会

参考ウェブサイト

- 文部科学省 確かな学力 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/index.htm
- 愛知県総合教育センター 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」
<http://www.apec.aichi-c.ed.jp/shoko/hyouka/hyoukashuhou/hyoukashuhou1.html>

編集後記

3年間の共同研究と本年度の所内研究を終えて、パフォーマンス評価を取り入れた学習指導のメリットを3点挙げます。1点目は、今後ますます必要とされる思考力・判断力・表現力等の資質・能力を測るのに適しているということ、2点目は、パフォーマンス評価と事前・事後の学習活動を通じて、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるということ、3点目は、教員が「生徒の学び」を見取ろうという姿勢で授業に臨むようになるということです。

パフォーマンス評価を繰り返し行うことで、教員が生徒の学びを見取る力が高まりますので、指導と評価の一体化がいつそう進み、学習に対する生徒の意欲も高まります。

本冊子が、先生方がパフォーマンス評価を取り入れる一助となり、各学校の指導と評価の充実に資することを期待します。

問い合わせ先

愛知県総合教育センター研究部

〒470-0151 愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾68番地

電話（0561）38-9504（ダイヤル） FAX（0561）38-2780